



三重塔
六年
山崎 真利



紙はん画



5年
大木 康弘



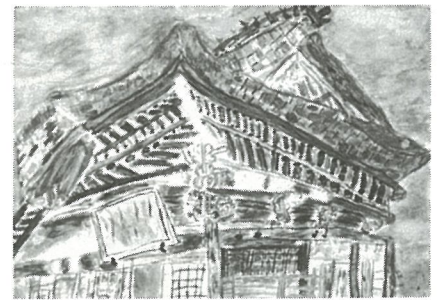
紙はん画

5年
小川 勝枝



芝山仁王尊

4年
大橋 美穂



芝山仁王尊

4年
大木笑美子



父が教職をさった時、期待をこめて聞いた。「これからは私達の父でいてくれるんでしょ」と。父は「悪いけどそれはできない。俺はこんな生き方しかできないんだ」ときっぱり言った。せつない気持ちと不思議な感動が胸に広がった。一口では説明できないが父の気持が私にはわかった。父がこんな生き方でゆくのならできる限りの協力をしようとする時思った。

シリーズ

我が家の家庭教育

二又 椎名 万里子



三重塔
6年
布施 睦

飲んべえで自己中心的だといつも批判し母の制止もきかず、くっつくかかった私だが、父の心は良くわかってきた気がする。私はいいかげんな母親なので、家庭教育という言葉にたじろいでいる。小言は躰の一種と思う。私の母にまかせよう。小言専門家に。私自身、生きる事に試行錯誤の最中なので偉そうな事を子供に言えない。「勝手に生きなさい」と息子に言う。本当にそう思う。

人生はマラソンと人は言う。そうであるなら子供のかわりに走ってあげる事はできない。私だって走っている。走り出したのなら、自分でゴールを捜し、ころび、起き、蛇行しながらも走ってほしい。途中寄りそうこともあるがやがて離れてゆく。ゴールも違うだろう。子供達に伝えたい母としての気持は一つ、「強く生きてゆけ」と。私はいつもそばにいる、お前達の気持をたぶんくんであげられる、必要ならば力を貸そう、悲しい時は一緒に泣こう。だから一人で強く生きてゆけと。父に無責任な親だと言われそうだが、今の私の思いだ。

普段は「少しお部屋をかたづけなさい」で済むことも、私の虫の居所が悪いと「なんなのこれは！カタツケロ」とわめき阿修羅の顔で四方八方物をなげる。子供達は少しおびえ、多いにあきれてパッパッと身をかわず。

「俺達是不幸だ。こんな親をもって。」
「あきらめろ！これがお前達のさだめだっ。」

我家の家庭教育は、まず、母親教育からだとも母親の私は思う。